

【2022年版 中小企業白書 サマリー】

南房総市内房商工会

第1部 令和3年度(2021年度)の中小企業の動向

●中小企業・小規模事業者の動向

中小企業・小規模事業者を取り巻く経営環境は、2年に及ぶ感染症の流行や原油・原材料価格の高騰、部材調達難、人材不足といった供給面の制約もある中で、引き続き厳しい状況にある。

こうした中、中小企業・小規模事業者の業況や業績は、感染症の流行直後において多くの業種で急激に悪化した状態から、緩やかな回復傾向にあるものの、依然として感染症流行前の水準まで回復していない業種も多い。一方で、感染症の流行により影響を受けている中小企業・小規模事業者に対して行われた資金繰り支援策の効果などにより倒産は低水準にとどまっている。

ただし、資金繰りの状況は回復のテンポが弱まっており、特に小規模事業者においては感染症の影響を受ける前の水準に戻っていない状況にある。

雇用環境については、依然として人手不足の状況が続いていることや、特に感染症の影響を受けた「宿泊業、飲食サービス業」、「生活関連サービス業、娯楽業」においては、いまだ雇用者数が戻っていない様子が明らかとなった。

今後は感染症だけでなく多様なリスクがもたらす影響により、厳しい経営環境が続く可能性もある中、中小企業・小規模事業者においては様々な経営課題に対応することが求められている。

(中小企業白書 小規模企業白書 2022年版⑤ 第1部にも同じ内容を掲載)

第2部 新たな時代へ向けた自己変革力

●中小企業における足下の感染症への対応

感染症がもたらした人々の生活や企業業績への影響について、各種データを用いて確認することができ、感染症下における事業再構築の実施状況について分析している。

第1節では、既存の統計に加えオルタナティブデータを用いて、感染症がもたらした人々の行動、企業業績、地域経済への影響について概観できる。緊急事態宣言やまん延防止措置が発令された時期には、全国の主要地点の多くで人口変動率が2019年同月比で減少している。同時期には特に外食、宿泊などの消費支出が大きく減少している。また、多くの中小企業が感染症により企業活動に影響を受け、企業利益が減少している。地域経済においては、感染症の拡大に伴って生産・設備投資の停滞が見られたが、足元で持ち直しの傾向にある。加えて、キャッシュレス化の進展など、人々の行動様式への影響も確認できる。

第2節では、感染症下で実施された中小企業政策の実績について概観できる。最初に感染症が流行した時期に講じられた資金繰り支援策について、感染症による影響の収束と共に終了した支援策がある一方、感染症の再流行と共に再び利用が増加する支援策もある。また、売上高の減少や利益水準の低下への対応に限らず、将来の不確実性に備え、多くの中小企業が資金調達を実施している。

第3節では、感染症下での事業再構築の実施状況について分析している。事業再構築を実施した企業の大半が売上面での効果が既にある又は見込まれるとしており、売上面以外でも、既存事業とのシナジー効果などを感じている企業も存在しており、事業環境が大きく変化する中で、事業再構築の実施を検討することの重要性について、事例を交えて示している。

●企業の成長を促す経営力と組織

企業の成長を促す経営力と組織について分析している。

第1節では、ブランドの構築・維持に向けた取組状況や取組内容を概観できる。ブランドの構築・維持に取り組んでいる企業においては、ブランドが取引価格の維持・引上げにつながっている。またデザイン経営の取組状況についても確認することができ、ブランドコンセプトを明確化することや、社内外へ浸透させることにより、ブランド力を高めることの重要性について事例を交えながら確認することができる。

第2節では、中小企業における能力開発や人事評価制度などの人的資本投資に関する取組について分析している。計画的なOJT研修やOFF-JT研修を実施している企業の方が、売上高増加率が高く、積極的に従業員の能力開発に取り組むことの重要性を指摘している。また、人事評価制度や、給与体系の整備、福利厚生施策の実施など、総合的な人事施策の重要性について確認することができる。さらに、フリーランス人材などの外部人材の活用が中小企業の競争力を高める可能性について確認できる。中小企業経営は経営者一人だけでは成り立たない。重要な経営資源である人材とともに、組織として経営課題を克服していく必要がある。従業員の能力を引き出すためには、従業員が存分に活躍できる環境を整えることが重要である。こうした人的資源投資に関する取組を通じて、我が国の中小企業がさらに発展していくことを期待したいとしている。

第3節では、経営理念・ビジョンに着目し、掲げている内容や浸透に向けた取組について分析している。複数のステークホルダーを意識した経営理念・ビジョンを掲げる企業が多いことや、自社の存在意義や目指す未来像を継承する重要性、環境の変化に応じ再構築していく意義を確認することができる。また、組織内の浸透を課題とする企業が少なくない中で、全社的に浸透している企業は従業員の自律的な働き方の実現に寄与していることや経営判断のより所となっている。

次に、経営戦略の策定における外部環境及び内部環境の情報収集・分析状況を概観でき、情報を分析し経営戦略に十分に反映させている企業の割合が多くはない。また、経営戦略を定期的に見直すことや、社内に浸透させることの重要性についても確認することができる。

さらに、中小企業経営者に着目し、経営者の特徴を確認しつつ、経営力を高める取組について分析している。経営者の多くは、経営に関する学習状況を十分に確保できていないと認識していることや、経営者が学習時間を意図的に確保している企業の方が、売上高増加率の水準が高い傾向にある。また、経営者が学習するだけでなく、学習した内容を経営や業務で実践することの重要性を指摘している。

第4節では、感染症下での海外展開の状況を概観でき、中小企業において越境ECの利用割合が増加傾向にある。また、脱炭素化やビジネスと人権といった共通価値に対する認識や取組状況について概観でき、中小企業における取組が十分に進んでいない状況にある。さらに感染症下で過剰債務に悩む企業が少なくない。最後にスタートアップ企業を取り巻く状況についても概観することができる。

●企業の成長を促す経営力と組織

共通基盤としての取引適正化とデジタル化、経営力再構築伴走支援について分析している。

第1節では、取引適正化と企業間取引について確認することができる。4割程度の受注側事業者において、2020年と比べると受注量が減少している一方で、増加している企業も3割程度存在しており受注が回復傾向にある企業も一定数存在する。一方で、原材料価格やエネルギーコストなどのコスト変動に対する価格転嫁が、依然として企業間取引における課題となっている様子が確認された。適正な価格転嫁に向けては、受注側事業者が取引における交渉力を高めるとともに、発注側事業者においては、受注側事業者が価格交渉しやすい環境を提供するなどの取組を実施することが期待されている。

第2節では、感染症流行直後から中小企業におけるデジタル化の機運が高まっており、感染症収束後を見据えた際にも、業種を問わず総じて高まる傾向にあることが確認された。また、デジタル化の取組状況を4段階に分けると、感染症流行下でデジタル化の取組を発展させた企業が一定数見られることも分かった。IT投資に対する姿勢については企業間で差が見られ、金額の多寡にかかわらず、自社の状況に応じてIT投資を実施していく重要性を指摘している。他方で、デジタル化に取り組む際の課題として、適切な費用対効果の測定に悩む企業が多いことも確認された。業務効率化をまずは重視した上で、定量・定性の両面から効果を適切に把握することが重要であると考えられている。最後にITツール・システムの導入状況としては、コミュニケーションやバックオフィス分野の導入が進むものの、セールスやサプライチェーン分野の導入は一部にとどまることも分かった。セールスやサプライチェーン分野のITツール・システムを導入する企業は、顧客との関係構築・強化に資する効果や商品・サービスの高付加価値化を実感する割合も高くなっており、今後導入が拡大していくことが期待されている。また、中小企業のデータ・情報資産の管理状況や利活用の実態についても確認することができた。データベース化ができていない企業は一定数存在する一方で、紙媒体での管理がされている企業の割合も高いことが確認された。電子化ができない・データベース化ができない要因としては、ITに関して知識や経験のある人材が在籍していないことや、そのような人材との接触の機会が少ないことが考えられ、2-3-5のコラムで紹介した育成講座の受講や、外部との相談を活用していくことは重要といえよう。取り扱うデータ・情報資産を精査することで、利活用の効果を実感できる割合が高まることから電子化への着手に挑戦する意義があるものと考えられている。

第3節では、支援機関によるサポートの現状と事業者の自己変革に向けた課題、今後の中小企業支援の在り方について確認することができる。今後、ポストコロナ時代を迎えるに当たって、中小企業、小規模事業者においても「経営力そのもの」が大きく問われており、経営者自らが、環境変化を踏まえて経営課題を冷静に見極め、迅速果敢に対応・挑戦する「自己変革力」が求められていることを指摘している。また、経営者自身が自己変革を進めるに当たっては、経営課題の設定段階から、支援機関との対話による伴走支援を受けることが重要であると考えられている。